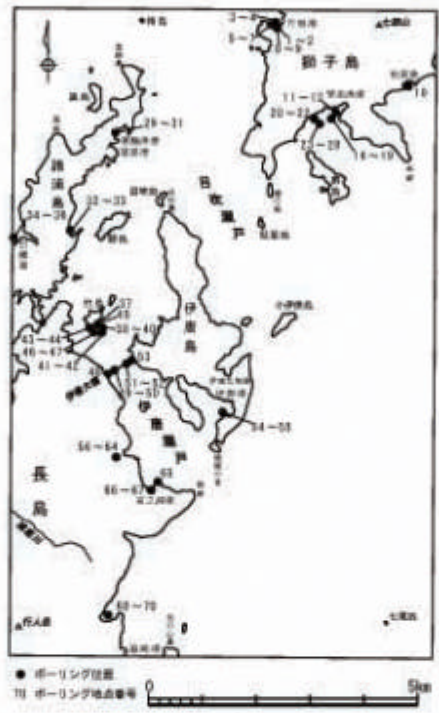
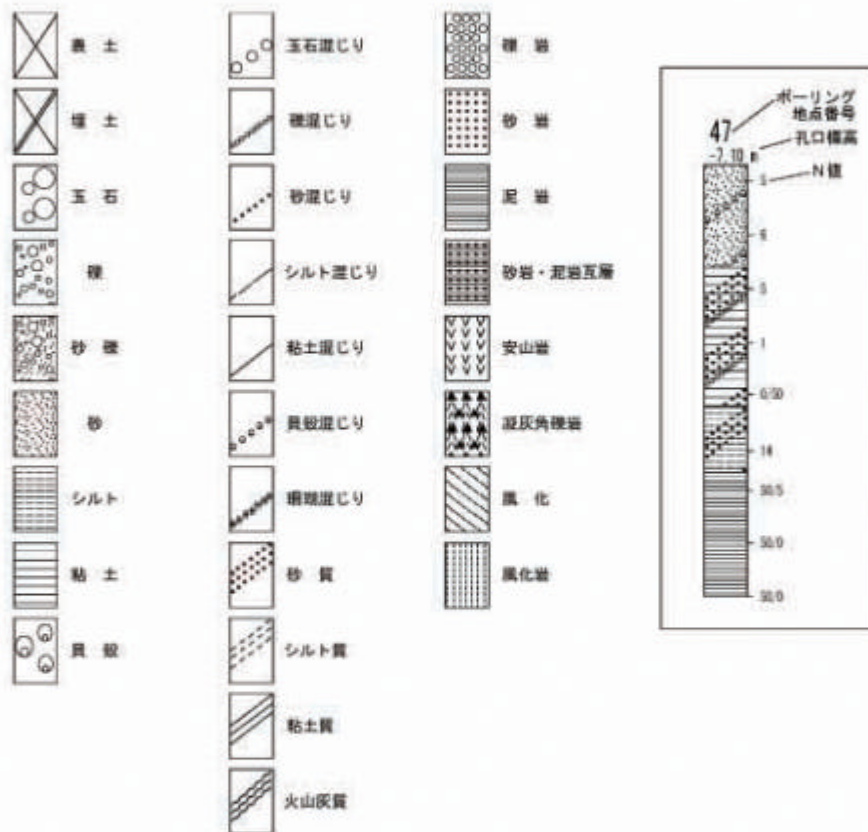


## 巻末付図

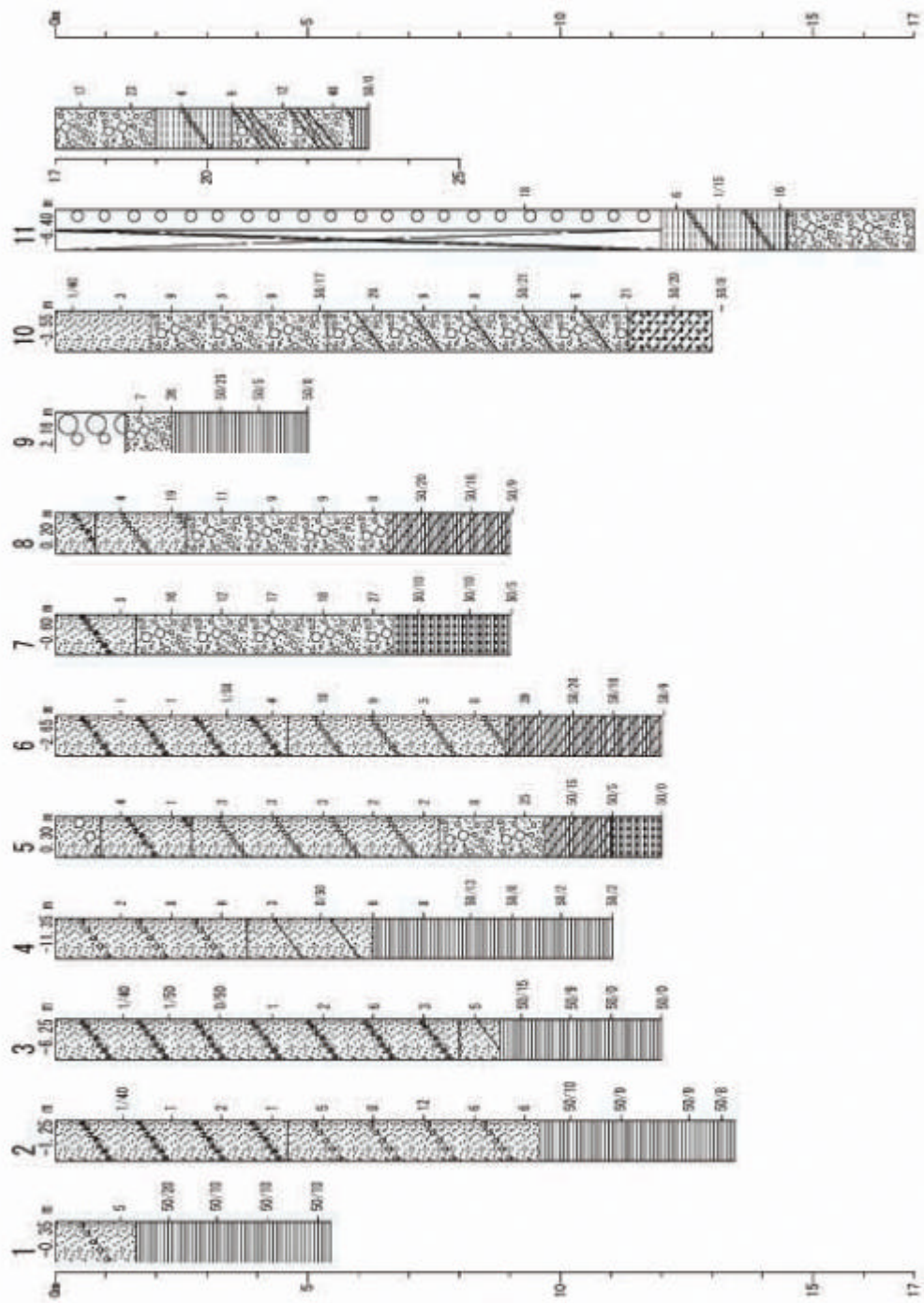
- ・ ボーリング位置図
- ・ ボーリング柱状図
- ・ 音波探査記録例位置図
- ・ 音波探査記録例



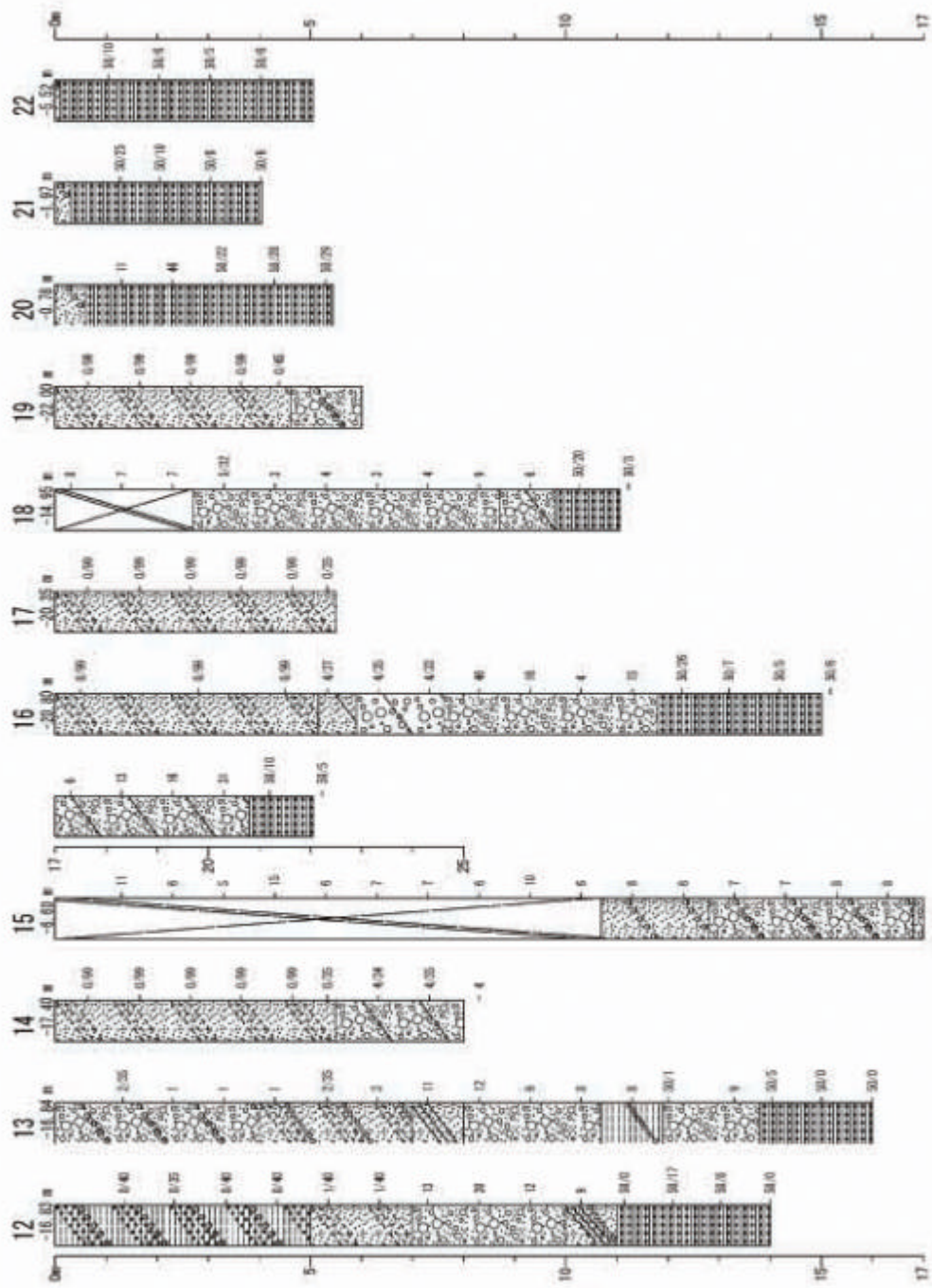
ボーリング位置図



ボーリング柱状図凡例

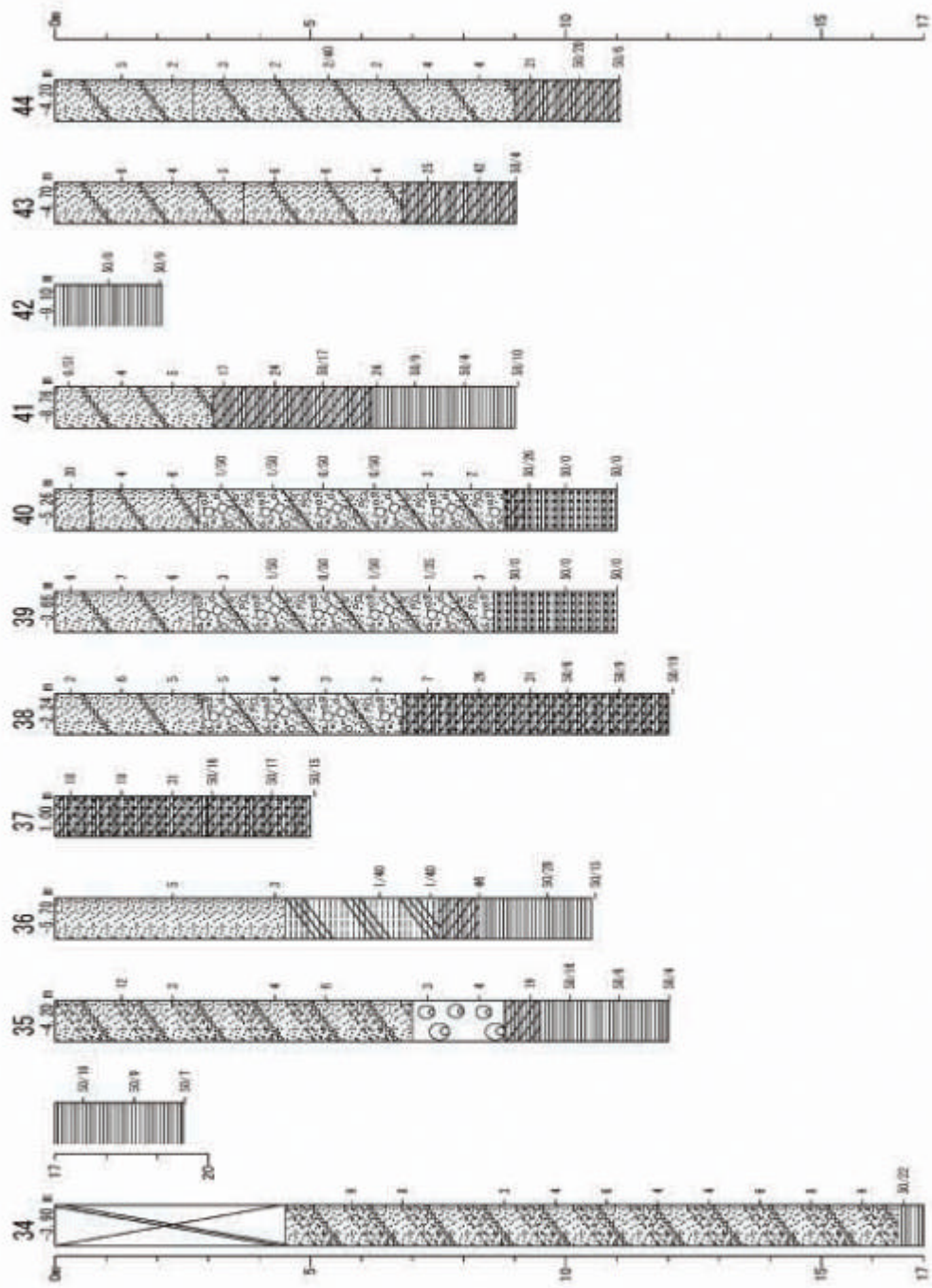


ボーリング柱状図 (その1)

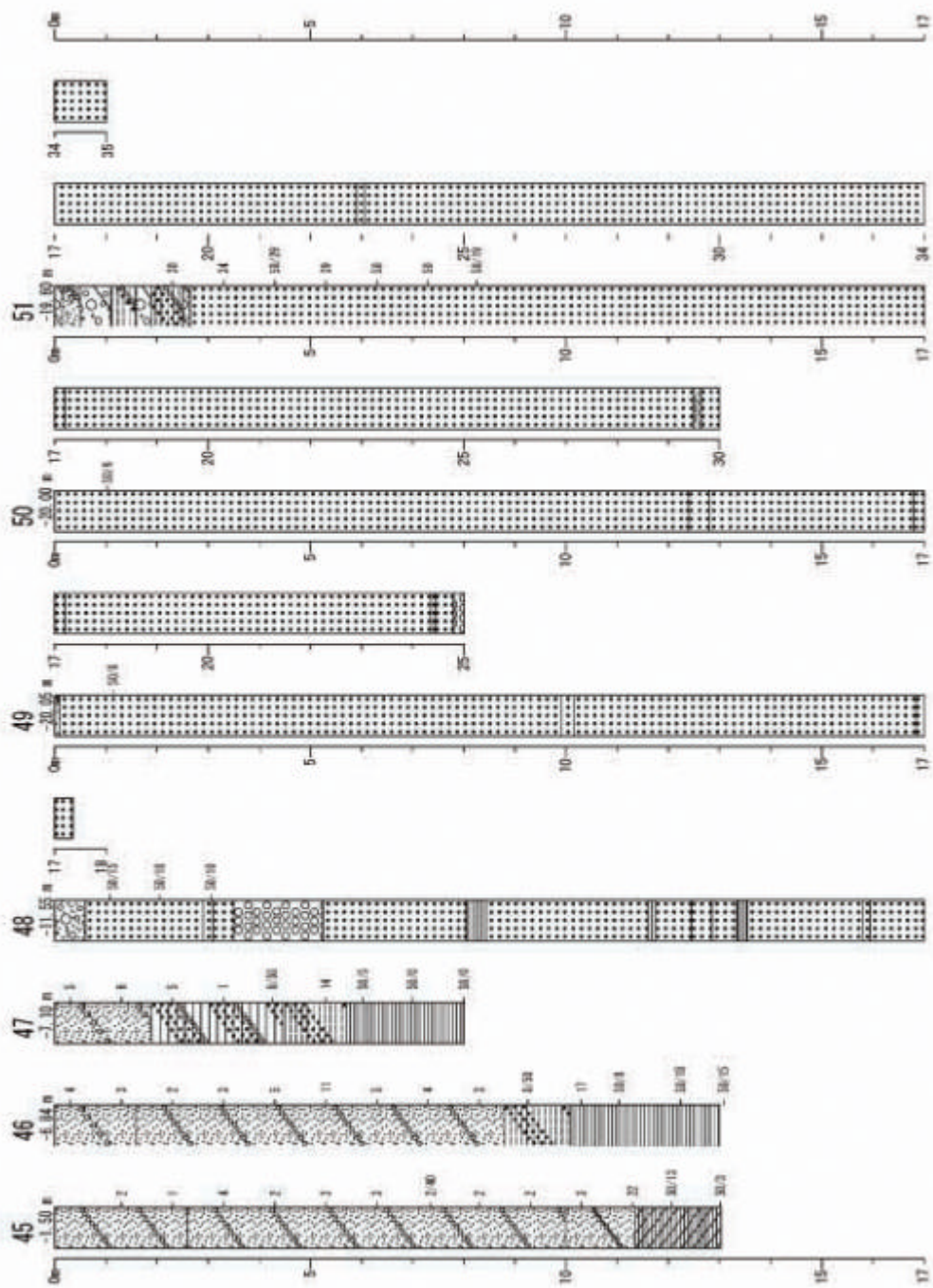


ボーリング柱状図 (その2)



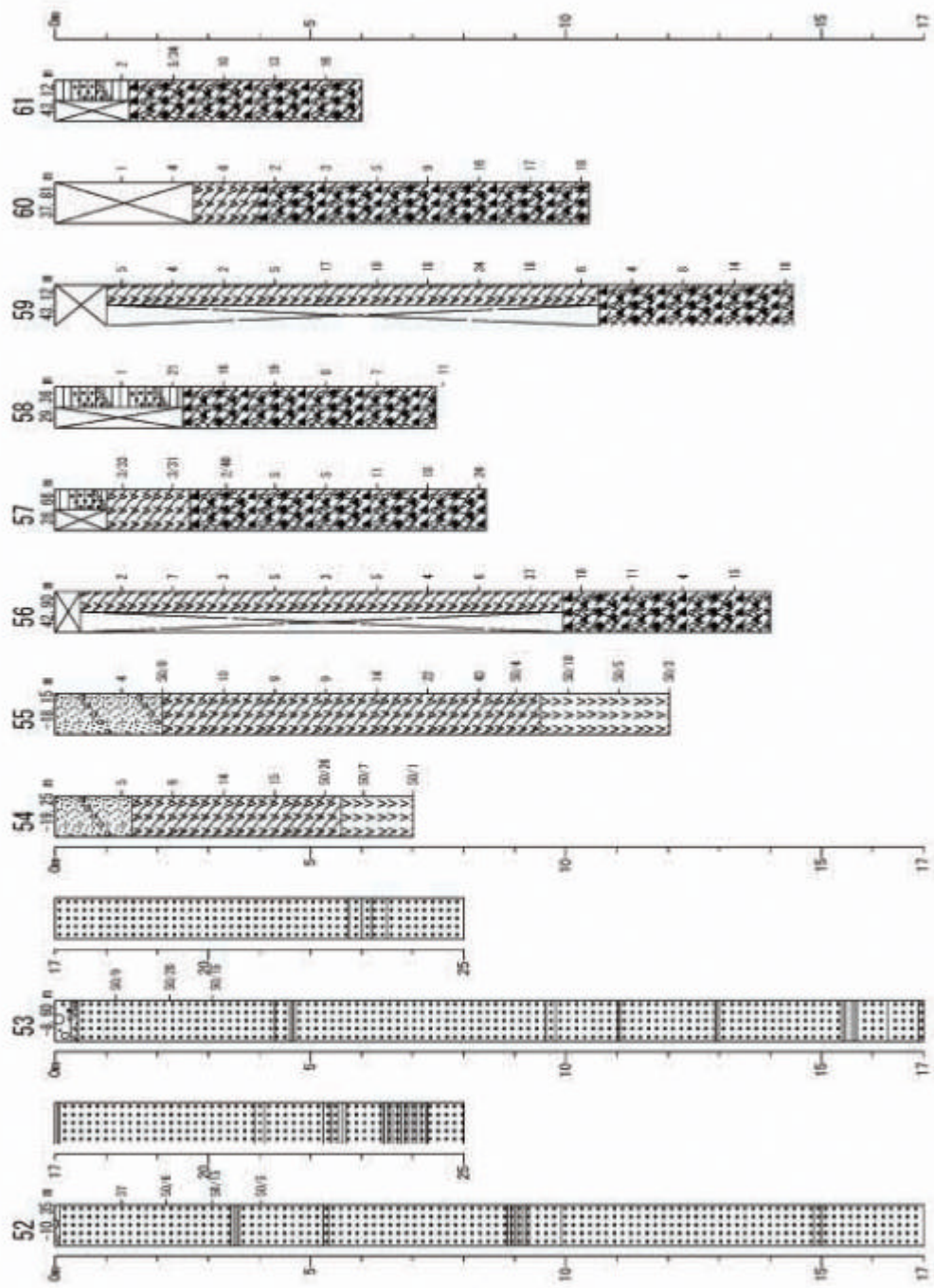


ボーリング柱状図 (その4)

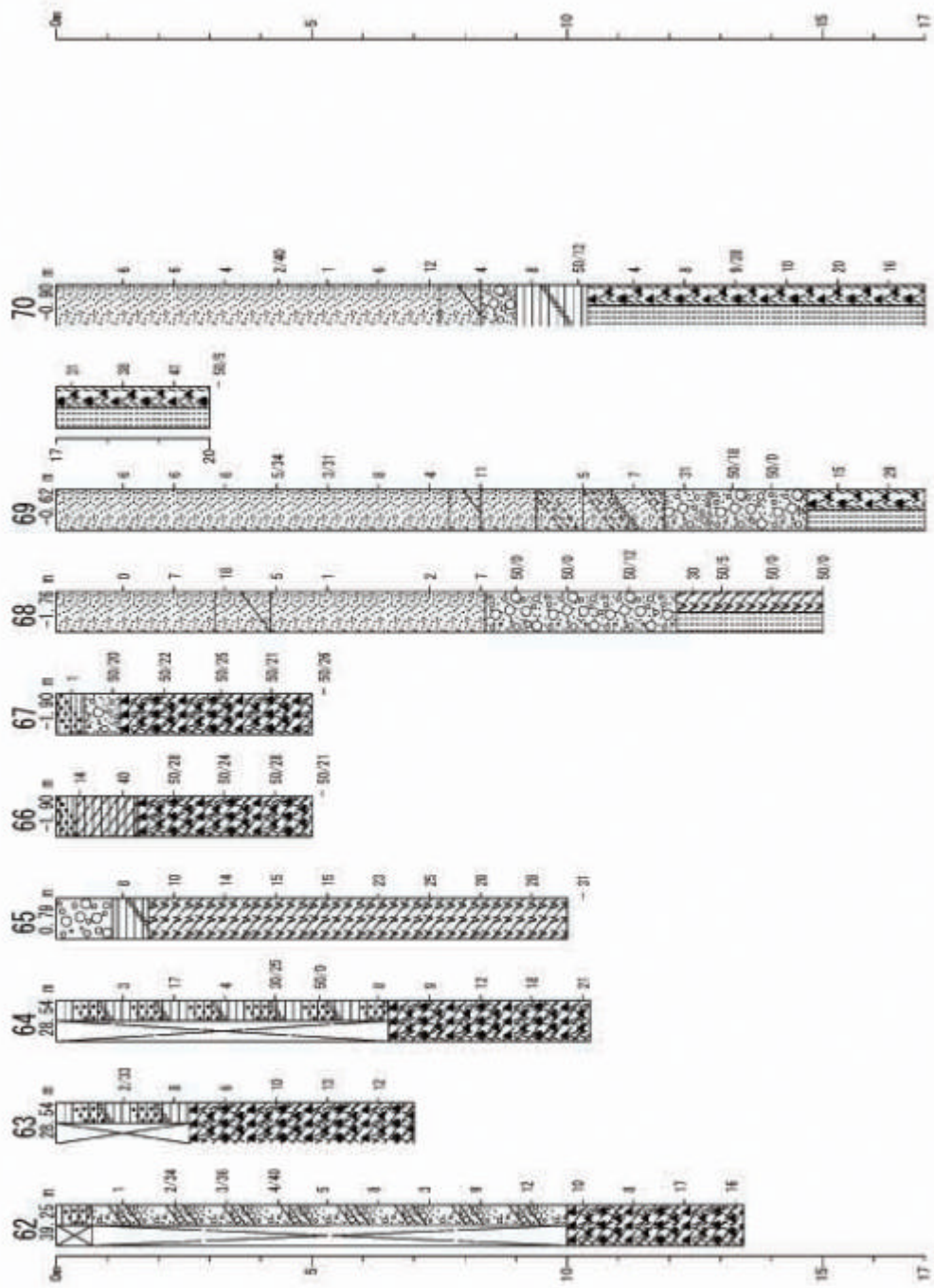


ボーリング柱状図 (その5)

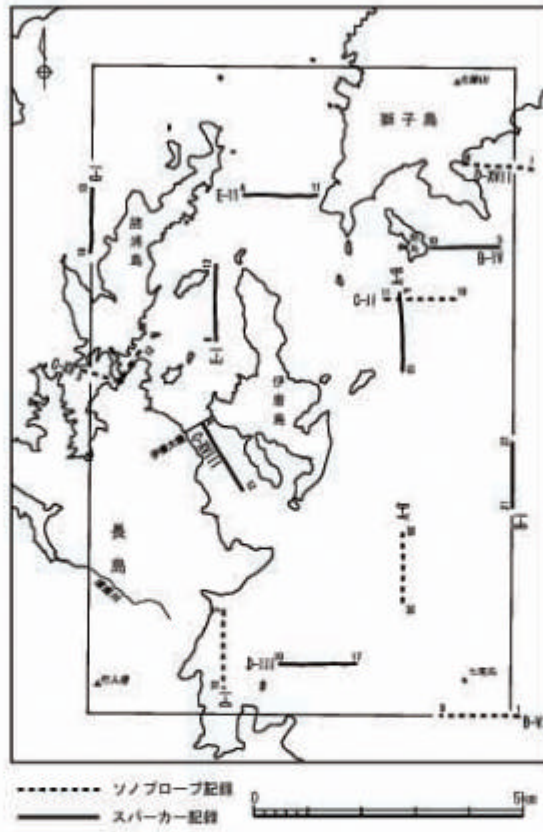




ボーリング柱状図 (その6)

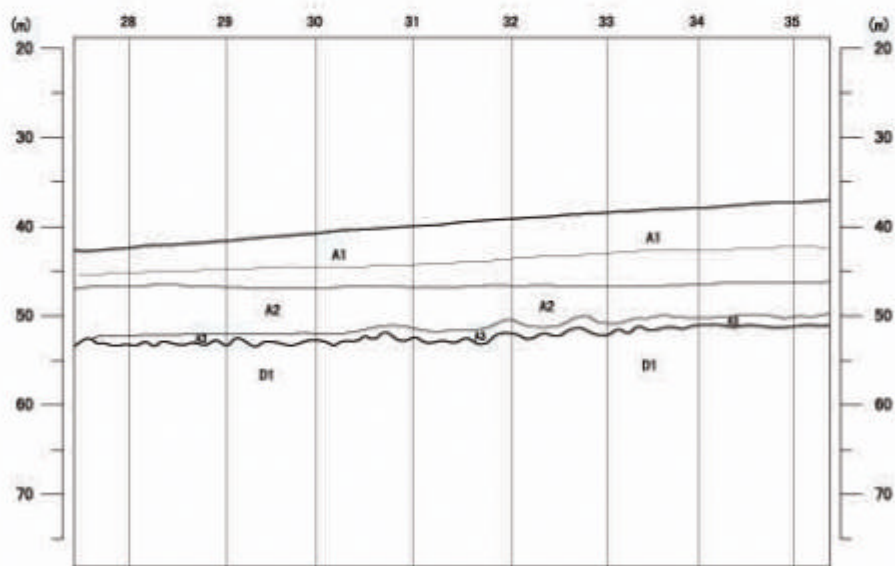
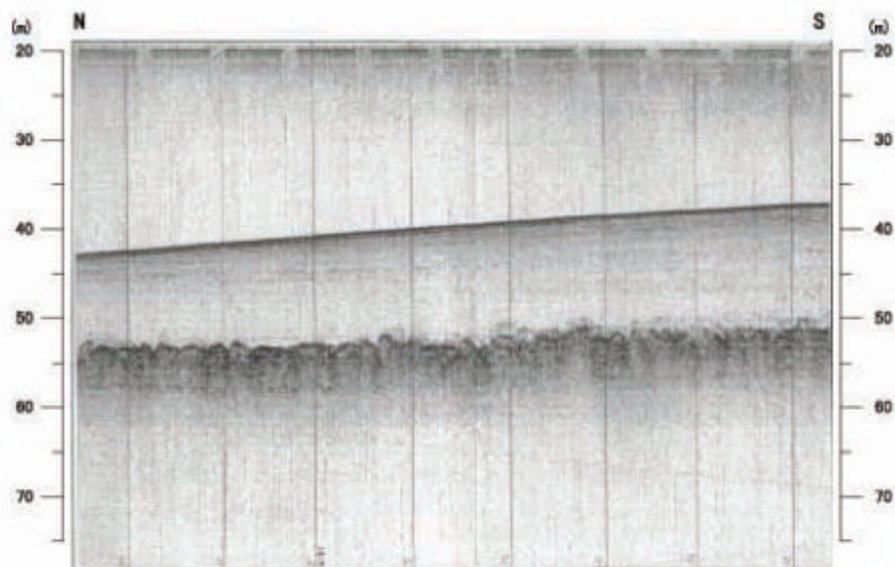


ボーリング柱状図 (その7)



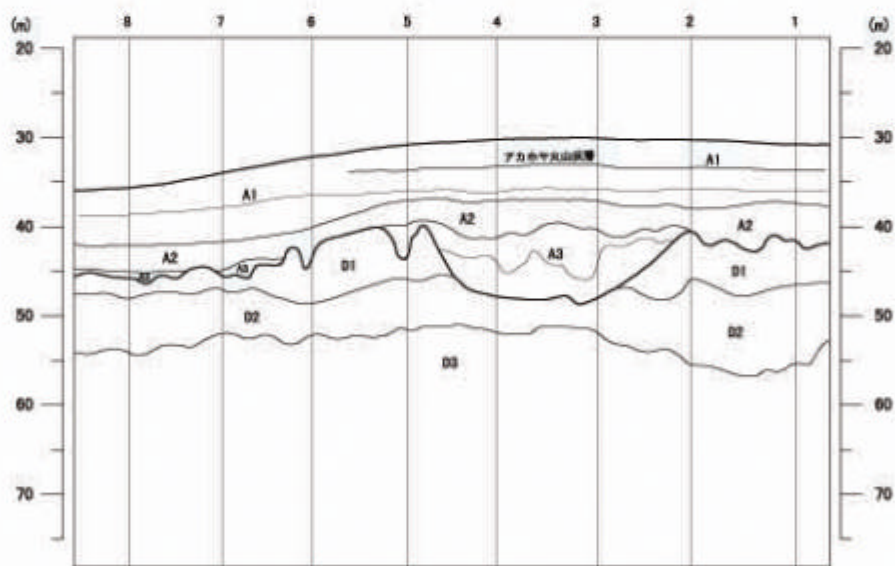
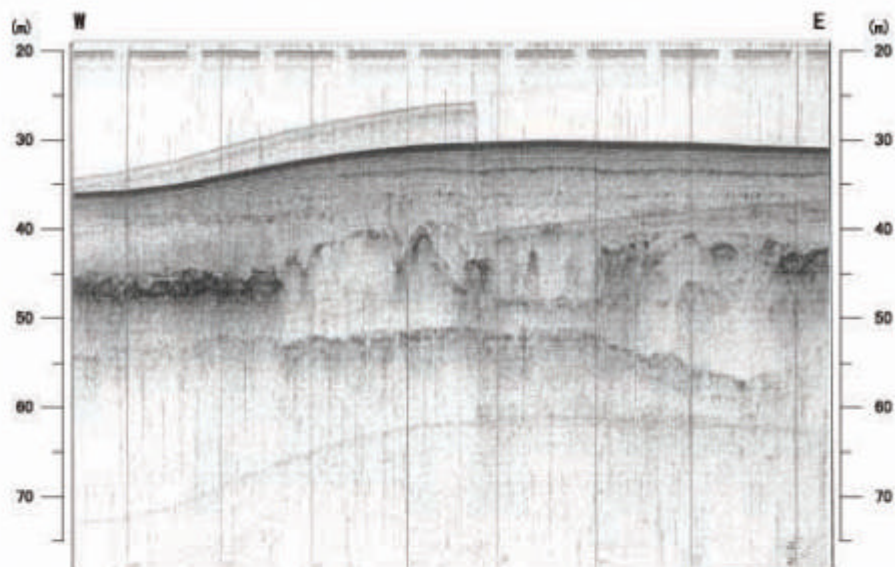
音波探査記録例位置図

## B-V



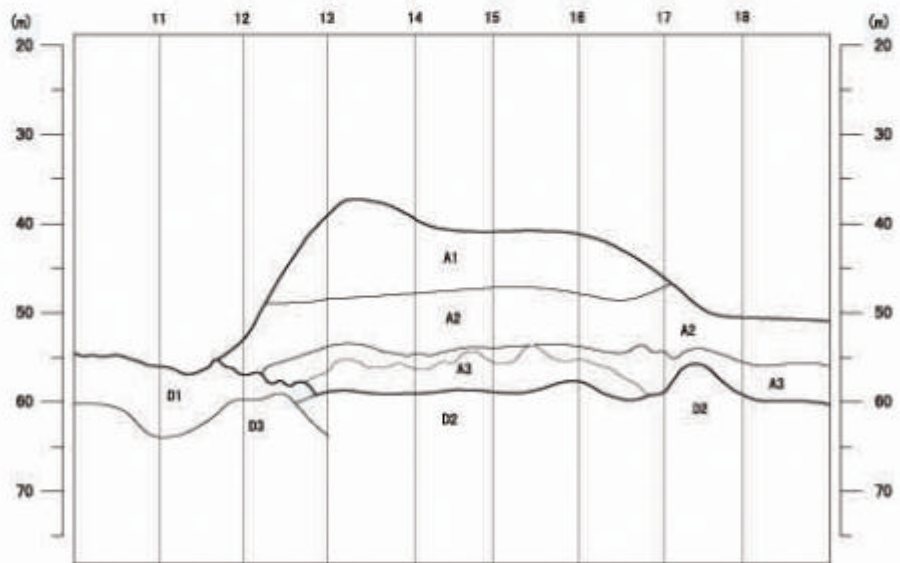
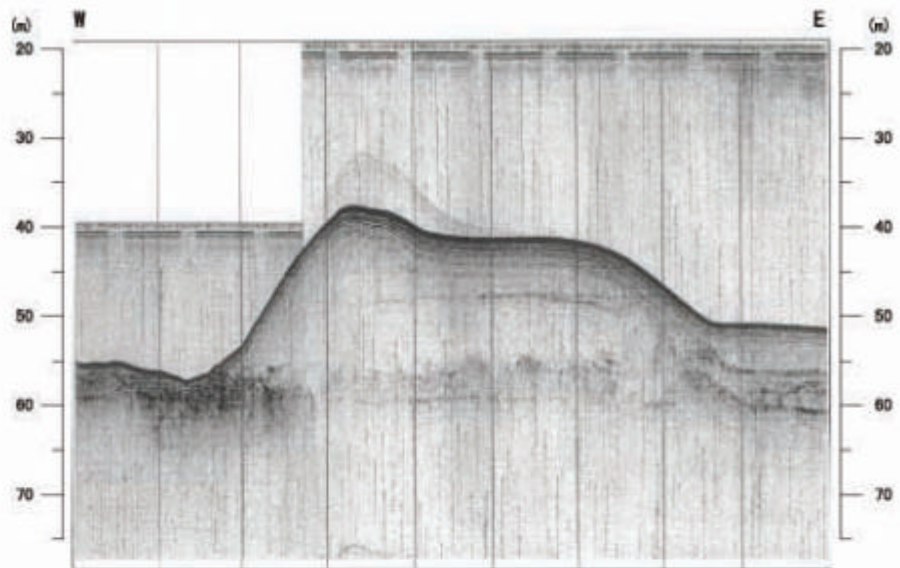
B-V測線のソナプロブ記録。調査海域南部の八代海に相当する。D層は上面が細かい起伏を持ち、内部が黒く顕著に濁るパターンで、A層との識別は容易である。A層内は主に白く抜けるパターンの音響的透明層だが、下部(A3層)はやや濁ったパターンを示す。

### B-VI



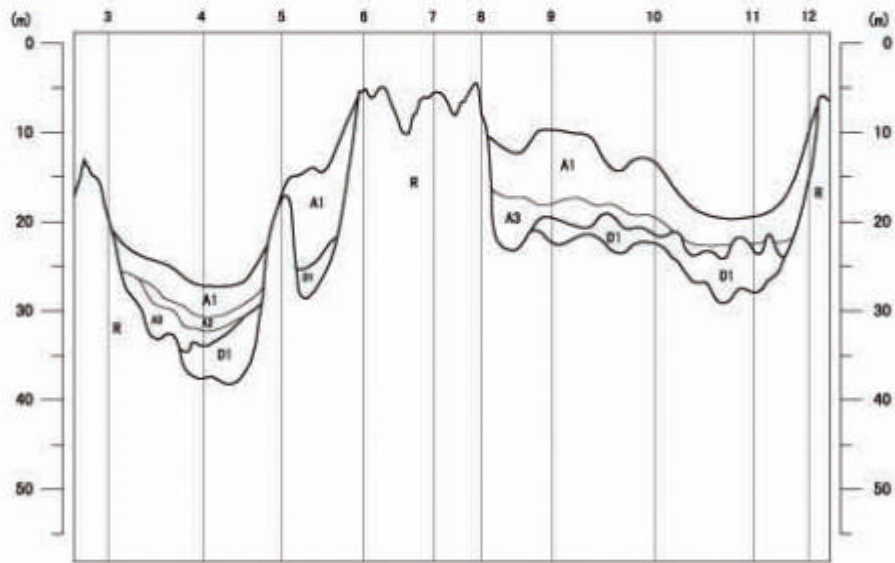
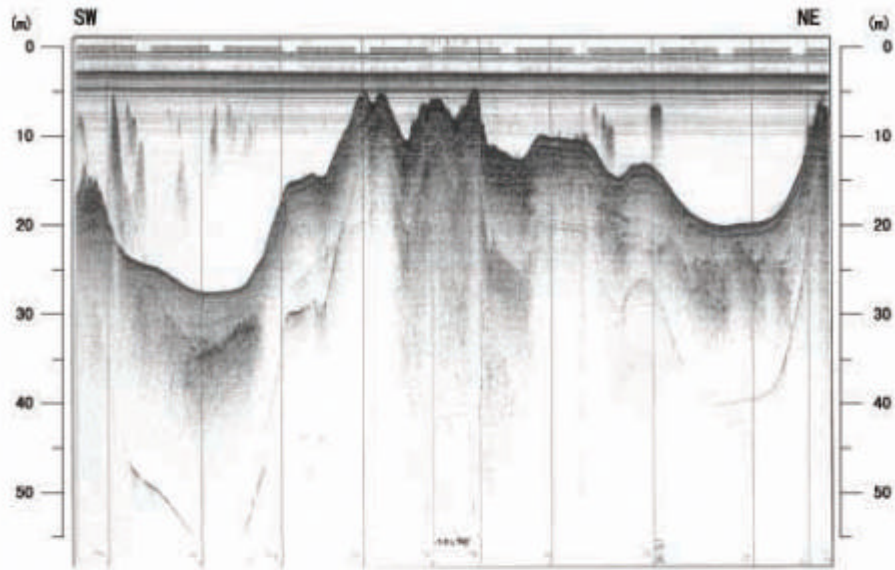
B-VI測線のソナー記録。本調査海域の南東端に相当する。D層上面は起伏が大きく、顕著な侵食面として認識される。A層内の深度34m付近には一条の強い反射面が認識でき、これはアカヤ火山灰層であると考えられる。

C-II



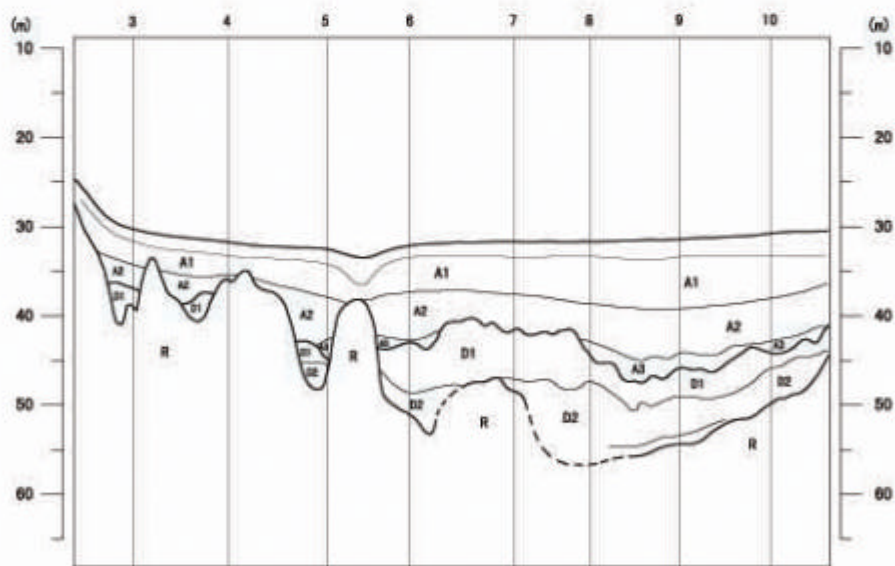
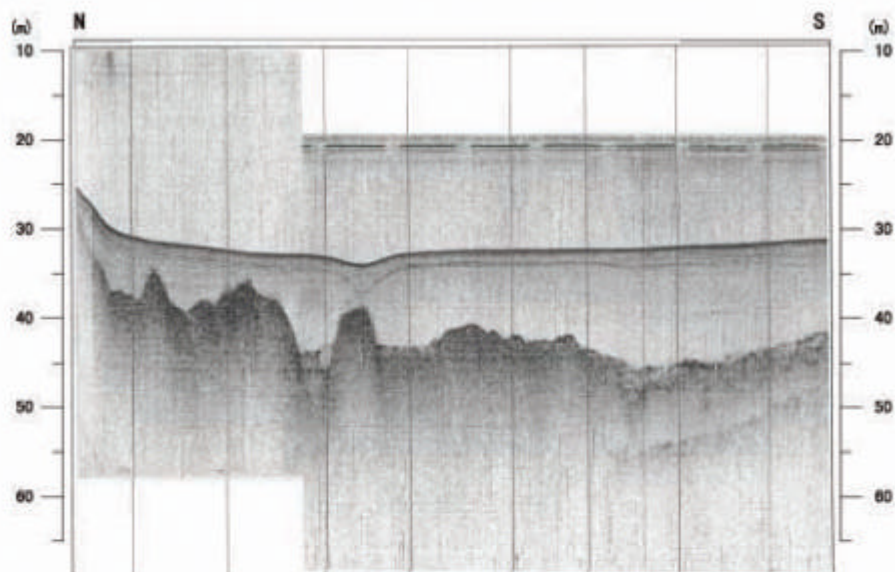
C-II測線のソナープロブ記録。獅子島南方での、A層が砂堆を形成している箇所である。A層の層厚は最大で20mを超える。砂堆の西側ではD層が海底に露出しており、黒く濁るパターンから砂礫質の粗粒な堆積物からなると考えられる。

C-XV



C-XV測線のソナプローブ記録。諸浦島と長島との間の水道部における測線である。R層による起伏を埋めるように、A層とD層が堆積している。A層の内部も他の海域と比較するとやや黒く濁り、粗粒な堆積物から構成されているものと考えられる。

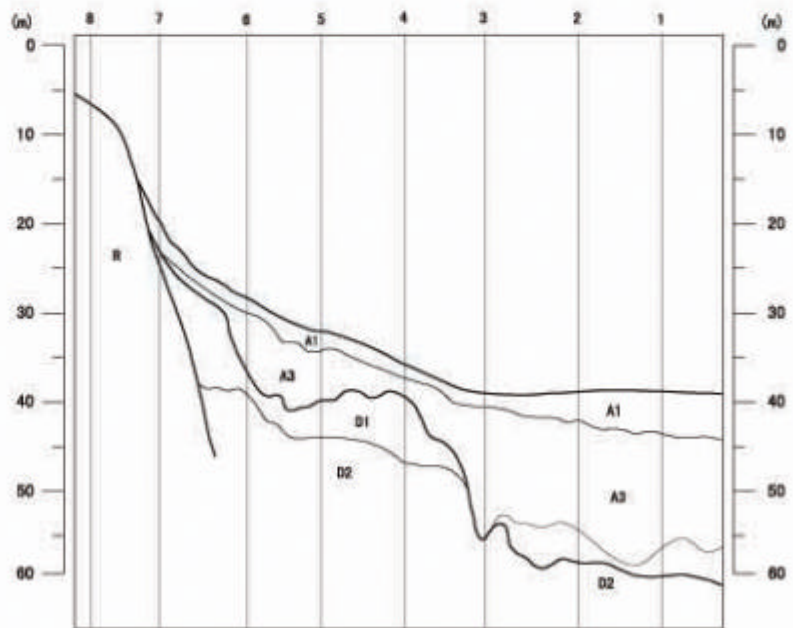
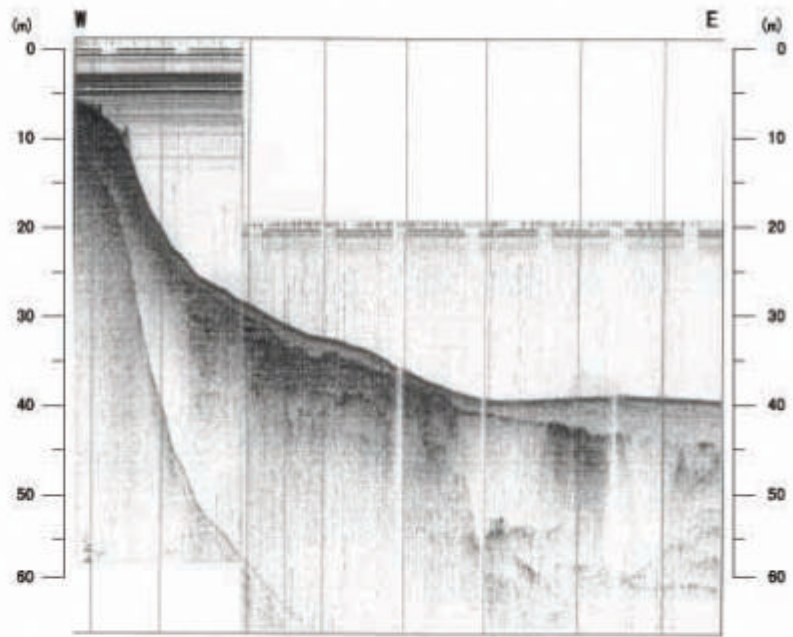
D-I



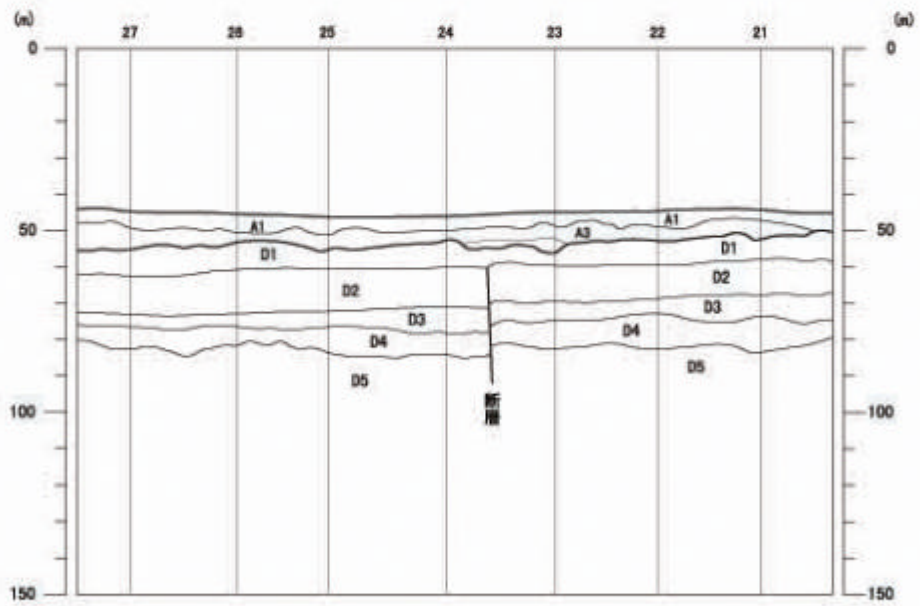
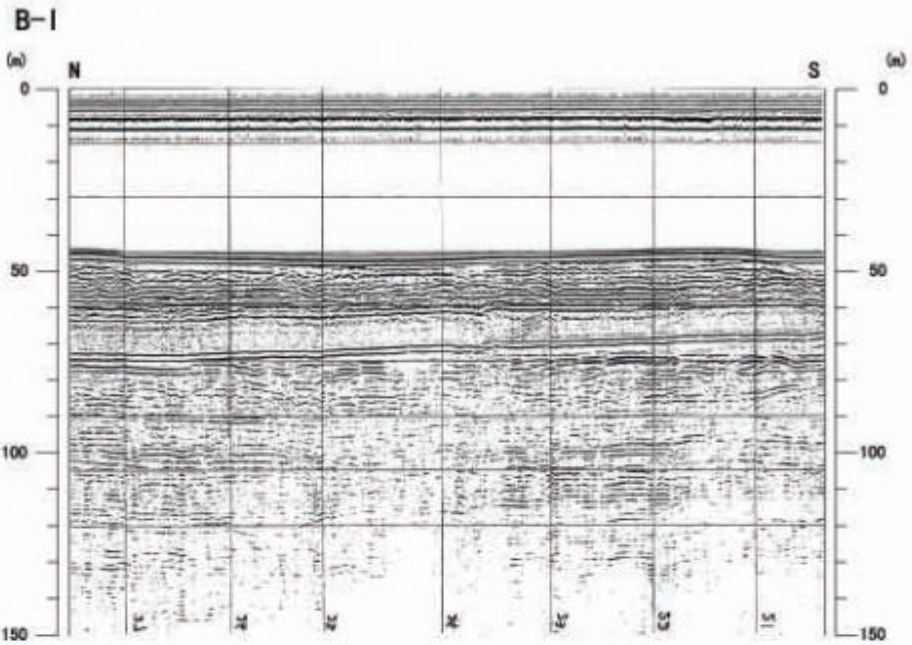
D-I測線のソノブロープ記録。調査海域南西部の長島藤崎港北方の海域である。黒く濁るパターンの基盤層と、白く抜けるA層との境界が明瞭である。ここでのA層は泥質な堆積物からなると考えられる。A層内の深度33m付近にみられる反射面は、火山灰層である可能性もある。



### D-XVII

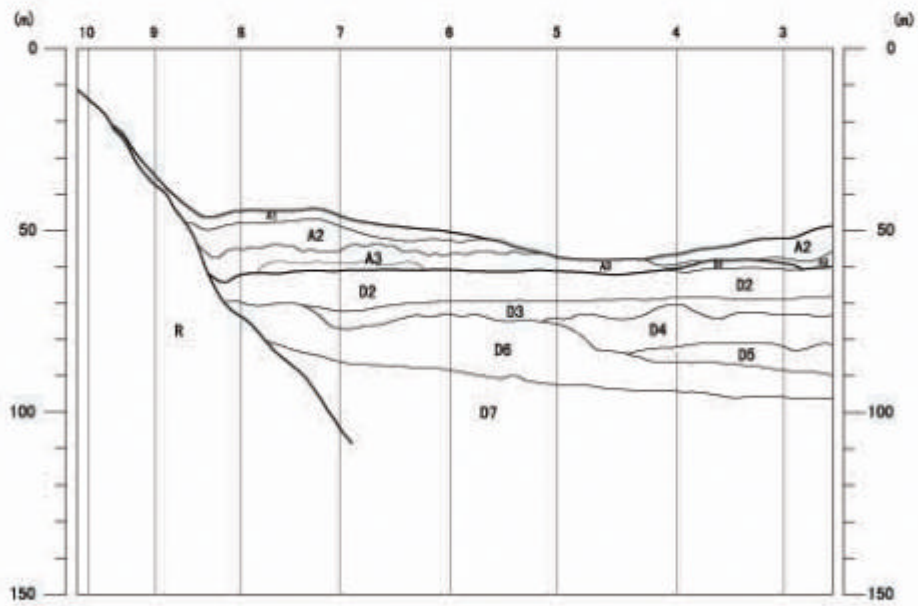
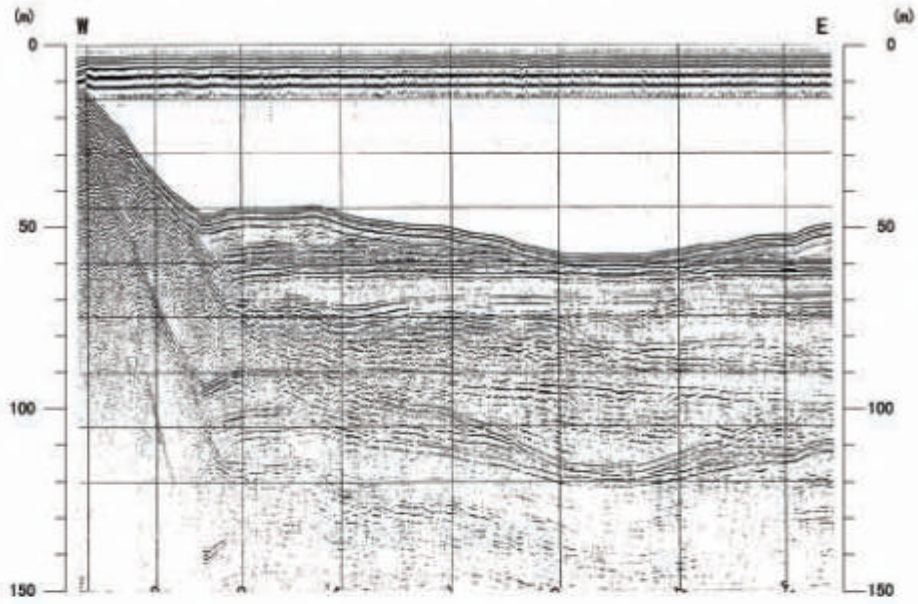


D-XVII測線のソノブローブ記録。獅子島東方の、調査海域北東端に相当する。ここでのA3層は黒く濁るパターンを示し、粗粒な堆積物からなるものと考えられる。



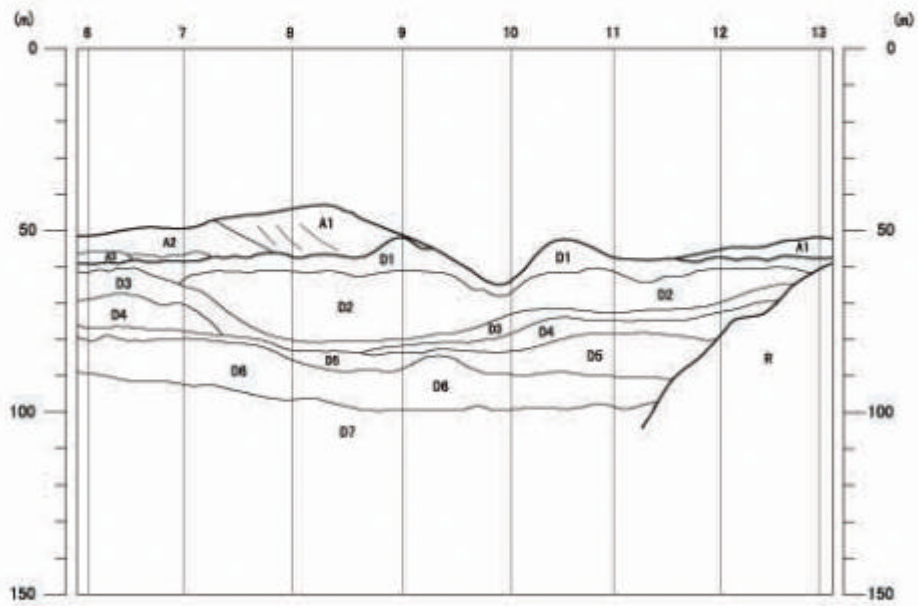
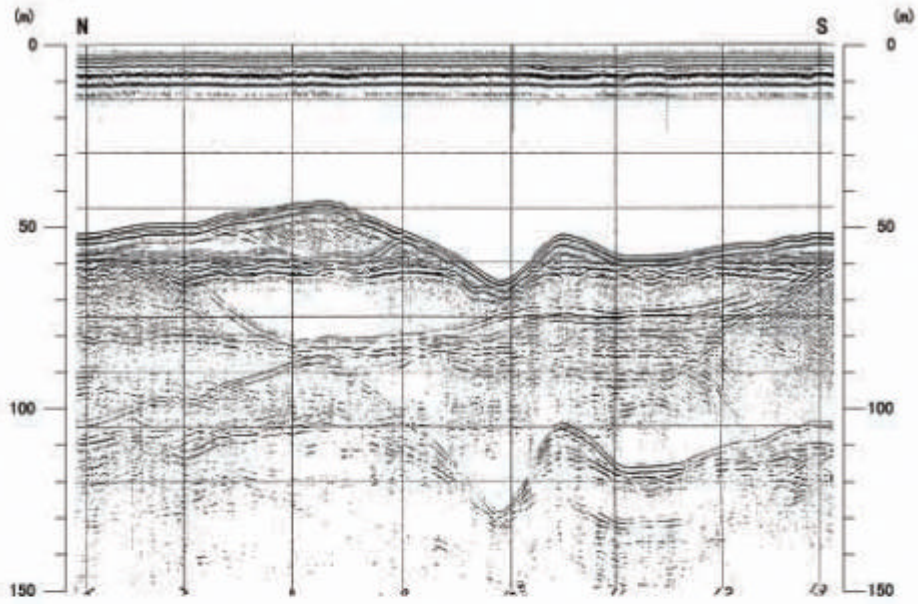
B-1断線のスーパーカー記録。調査海域東部の八代海における平坦面の箇所に対応する。火砕流起部の堆積物と考えられるD2層の白く抜ける反射パターンが特徴的である。標定点23~24にかけて反射面にズレがみられ、断層であると考えられる。この断層はD2層以下の地層に変位を与えている。

B-IV



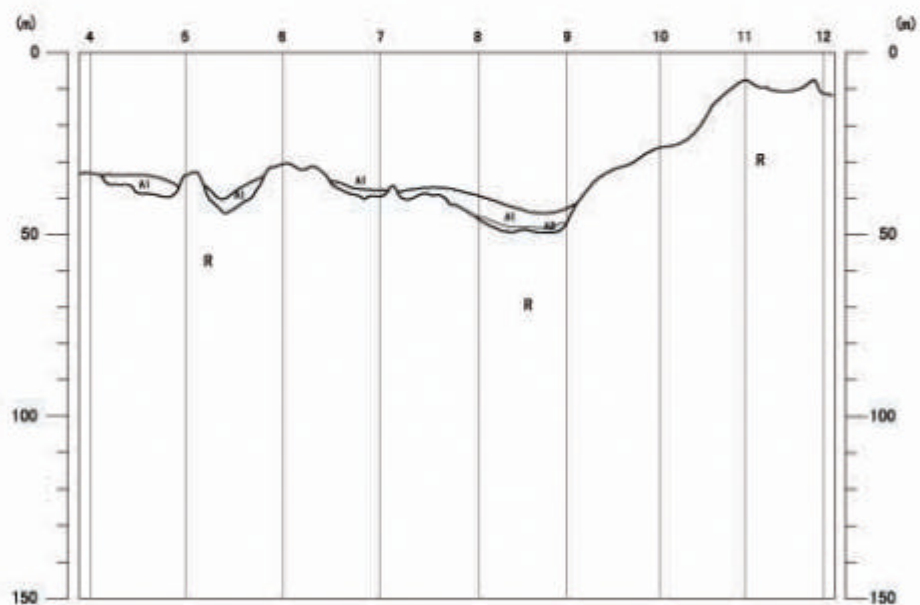
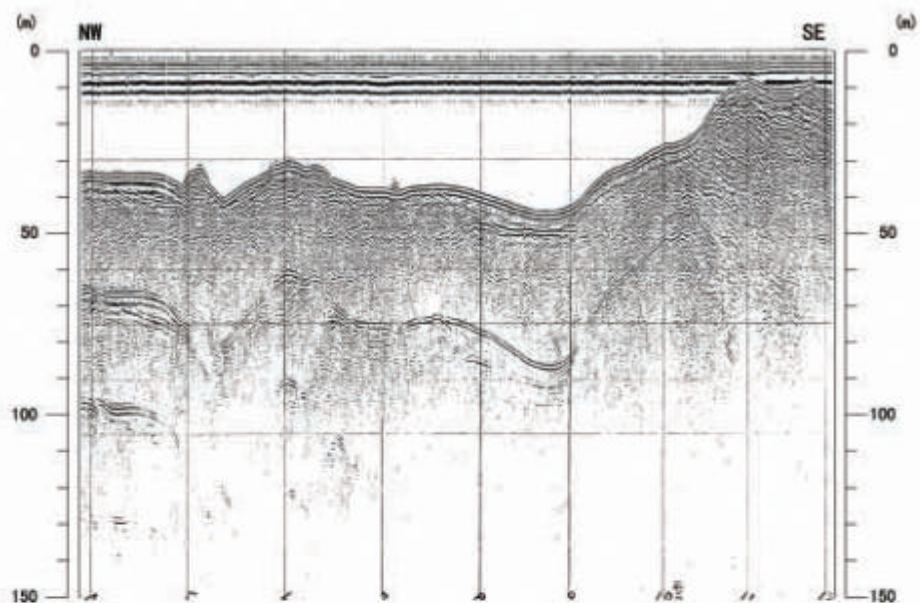
B-IV測線のスーパーカー記録。獅子島南方の海域である。D層(洪積層)が厚く堆積しており、反射パターンや堆積形態の違いからこれをD1からD7の7層に細分した。この記録例においては、特にD6層上面の不整合が顕著である。

B-V



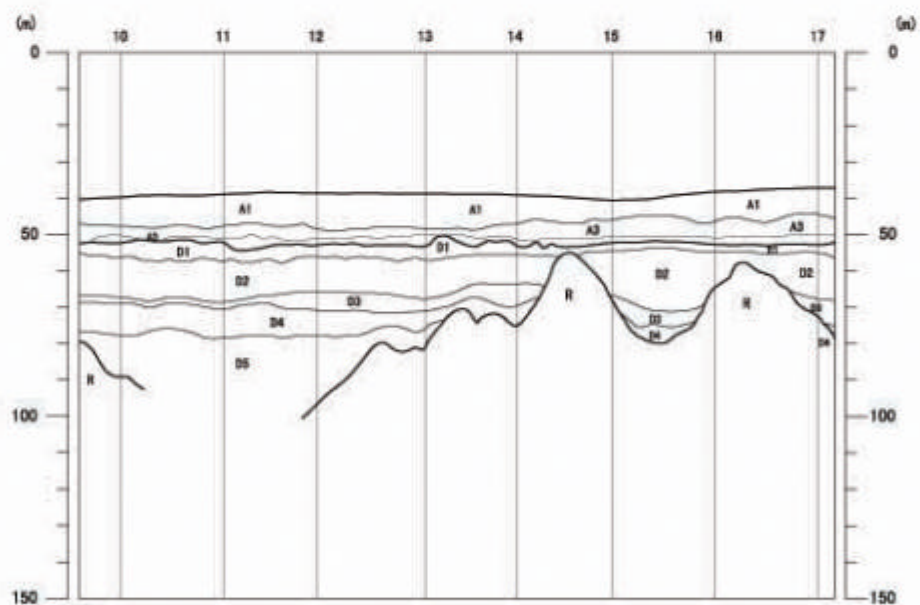
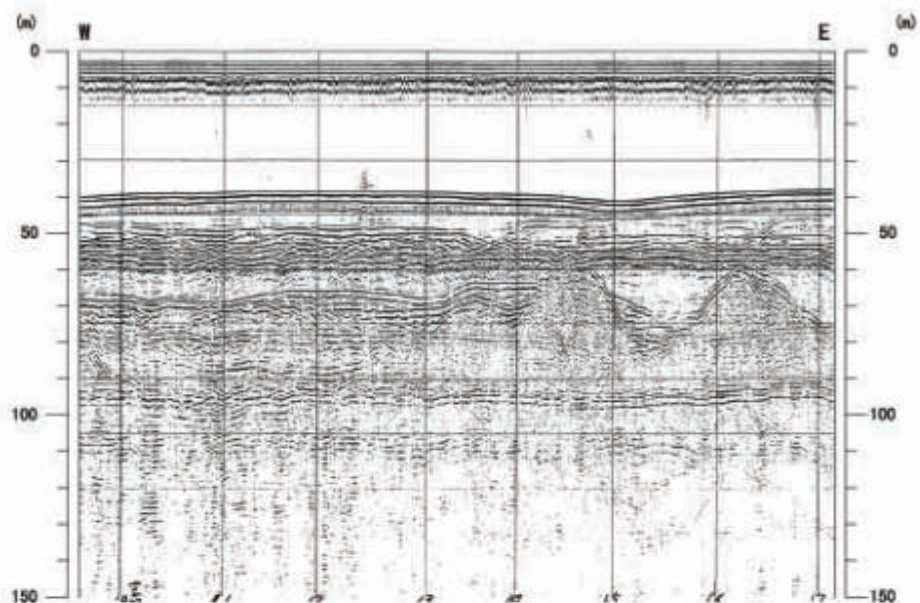
B-V測線のスーパーカー記録。調査海域北東部の、前島の南方に相当する。A層が砂堆を形成しており、砂堆の頂部には傾斜する層理面が確認できる。砂堆の南側ではD層が海底に露出している。D3層上面が大きい侵食面となっており、それを埋積する格好でD2層が厚く堆積している。

C-XVIII



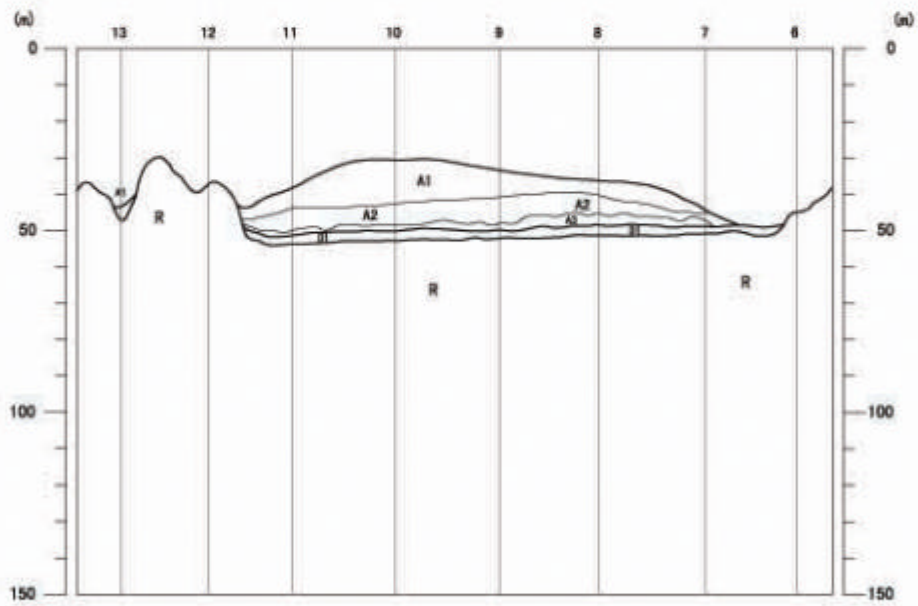
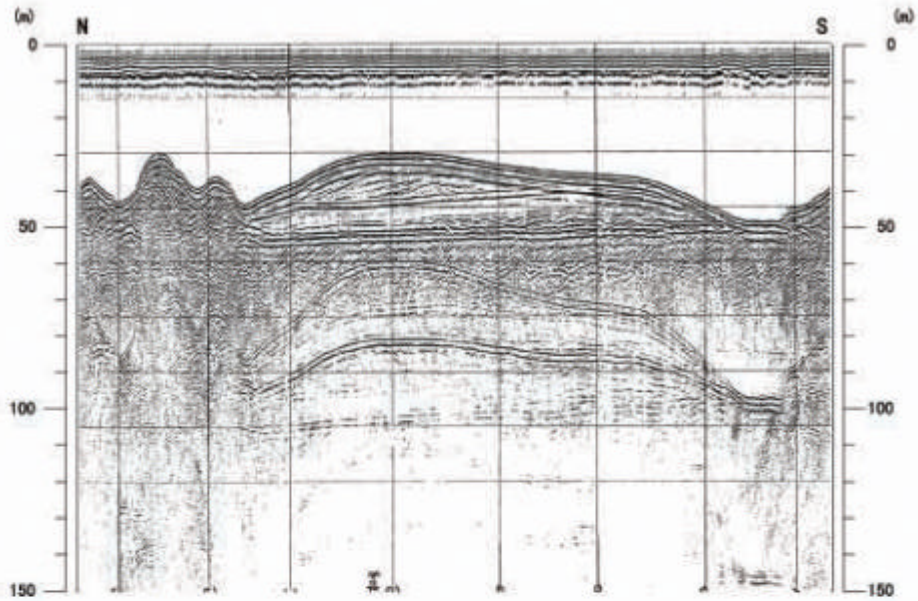
C-XVIII測線のスーパーカー記録。長島と伊唐島との間の伊唐瀬戸における記録である。音響基盤層であるR層が海底に露出している。R層の内部には層理面らしき反射面も確認でき、長島や伊唐島に分布する古第三系の堆積岩からなるものと考えられる。

### D-III



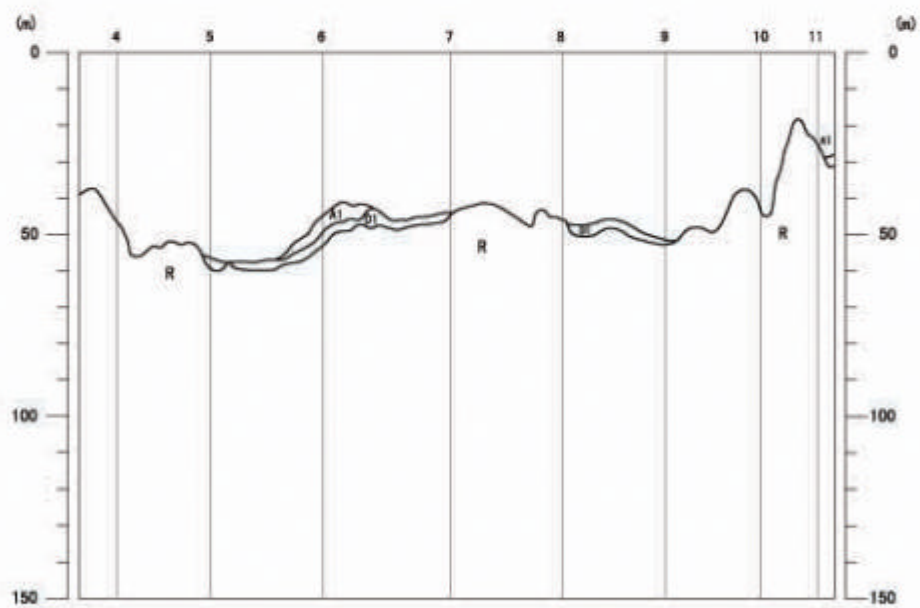
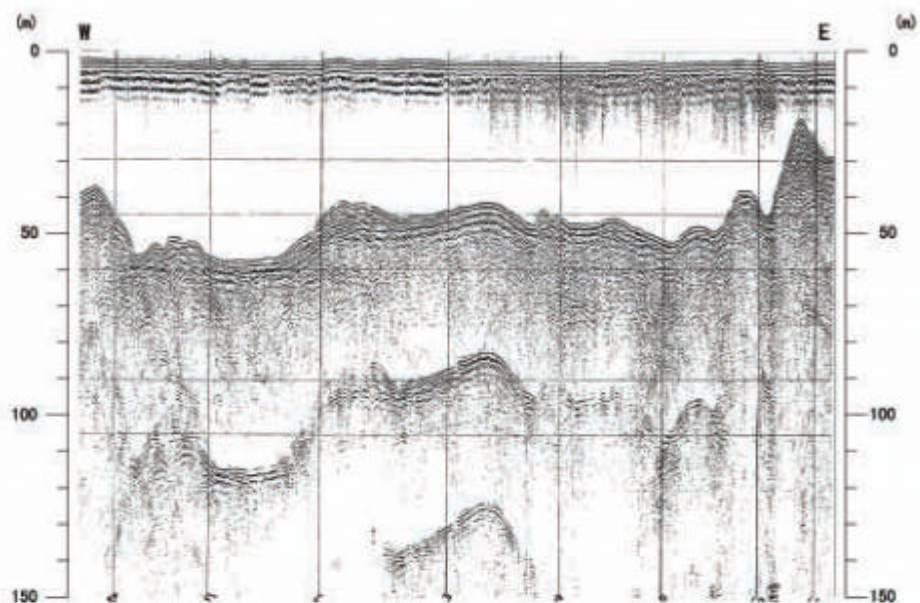
D-III測線のスーパーカー記録。長島東方の平坦面に相当する。上面の大きな起伏と、内部の散乱するパターンによって、R層は容易に分類できる。D層においては、D2層の白く抜けるパターンとD3層上面の強い反射が特徴的である。A層は上部は白く抜けるパターンだが、下部は乱れたパターンを示し粗粒な堆積物からなると考えられる。

E-I



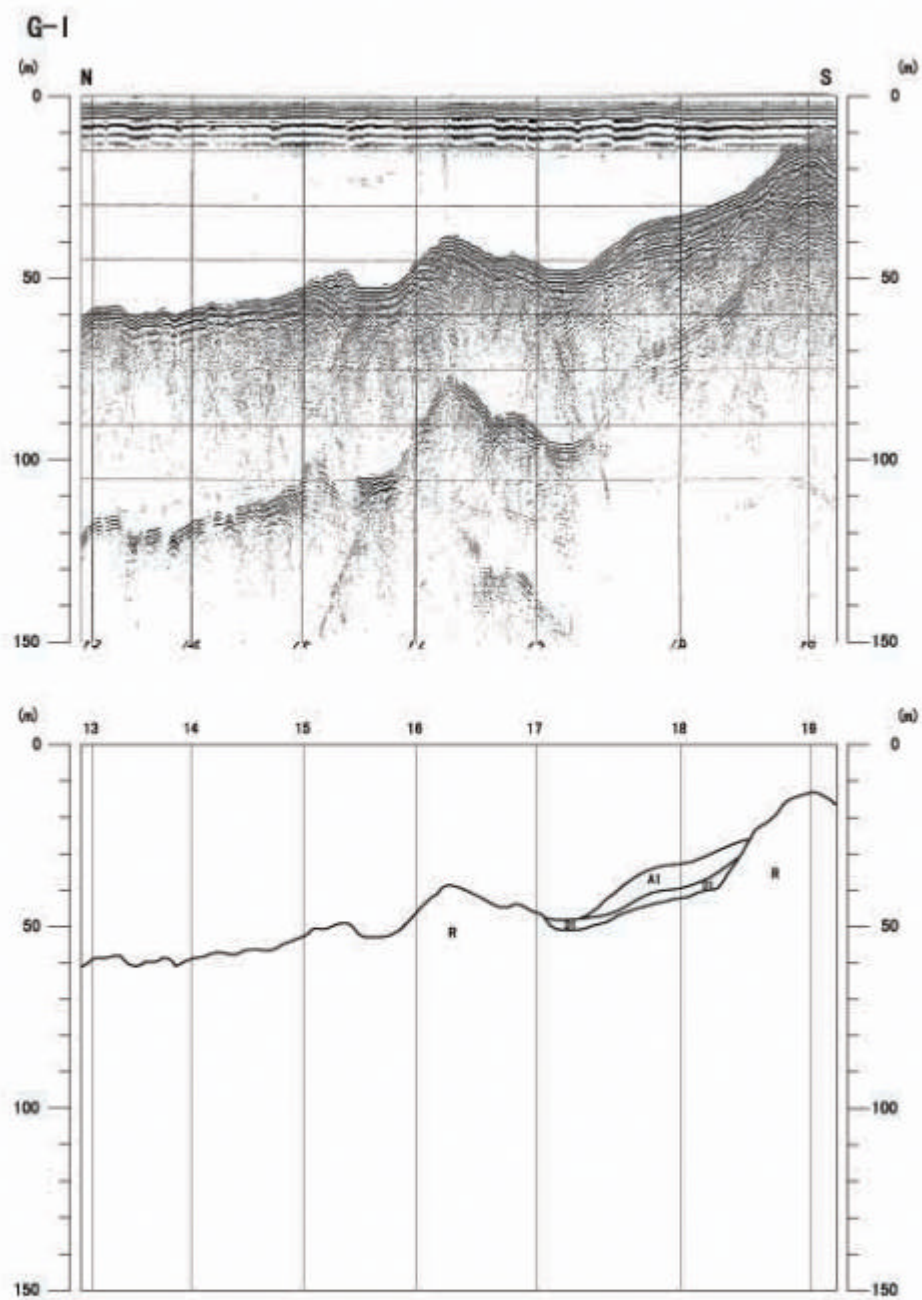
E-I測線のスパーカー記録。伊唐島と諸浦島との間の海域である。A層が大規模な砂堆を形成して堆積しており、層厚は20mに達する。A層の上部(A1層)には傾斜する層理面が確認できる。下部(A2層)は太い反射面と乱れたパターンを示し、粗粒な堆積物からなると考えられる。

E-II



E-II測線のスーパーカー記録。獅子島と諸浦島との間の海域である。R層が海底地形に大きな起伏を与えている。A層やD層は局地的に分布しており、反射パターンがやや乱れていることから、やや粗粒な堆積物からなると考えられる。





G-I測線のスーパーカー記録。調査海域北西部、諸浦島西方に相当する。この付近では、音響基盤層であるR層が広く海底に露出し、上位層の分布はあまりみられない。R層の内部は強く散乱するパターンを示す。